続・『無冤録述』の初歩的検討（再訂稿）

―江戸期及び明治警察史の一齣―

（令和４（2022）年８月８日（月）現在）

〔目　　次〕

（補正経緯）……1
1 はじめに ……2
2 山崎佐氏（たすく、1888～1967）関連 ……2
3 三木栄氏（1903～1992）関連 ……3
4 李氏朝鮮（1392～1910 年）に於ける『無冤録』の系譜 ……4
5 『無冤録述』の系譜 ……5
6 『無冤録述』関連現代著作抄 ……7
7 HP、漫画、韓国ドラマ等紹介抄 ……7
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）……8
【関連事項】……9

（補正経緯）

HP 初出: 平成 22（2010）年 12 月 6 日（月）初稿作成
平成 25（2013）年 3 月 5 日（火）改訂稿作成
（「7 HP、漫画、韓国ドラマ等紹介抄」を一部補正）
令和 4（2022）年 8 月 8 日（月）再訂稿作成
（レイアウトを全面変更し、副題を「江戸及び明治警察史の一齣」から改題するとともに、一部補正、追加した。）

1 はじめに

江戸、明治期の法医学関係について、先に、本 HP 別稿として、①「明治初期「裁判医学校」乃至「警視医学校」検討一斑―明治警察史の一齣―」（平成 22 年 1 月 23 日初稿作成）〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf〉、②「『無冤録述』の初歩的検討―江戸及び明治警察史の一齣」（平成 22 年 9 月 26 日初稿作成）〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf〉を作成したが、本稿は、このうち、後者②の続稿である。ただし、後者②は、その後逐次補正を加えていることから、多々重複していることをお断りしておく。いずれ一本にまとめることができればと思う。

先般来、『無冤録』及び『無冤録述』検討をするうちに、さる識者より、新たに、山崎佐（たすく、1888～1967）[1]「検視史資料類纂〔55〕 第 210、検視書及法医学書解題（5） 5 変死傷検視必携 無冤録述」『犯罪学雑誌』第 15 巻第 6 号（昭和 16 年 11 月刊）100～103 頁の写しの御恵投に与るとともに、同氏検討の重要性につき、貴重な御示唆を頂戴した。

そこで、山崎佐氏について、取り急ぎ、江尻進（女婿、1908～1996）編『思い出に綴られる山崎佐の生涯』（江尻進発行、昭和 43 年 2 月 20 日刊）を繙いたところ、同書所収の三木栄（1903～1992）[2]「日本と朝鮮の裁判医学」（289～291 頁）を見い出し、同稿により、山崎佐「明治前日本裁判医学史」『明治前日本医学史』第 5 巻（日本学士院日本科学史刊行会、昭和 32 年 1 月 15 日刊）をまず検討すべきことが判明した。次いで、三木氏について、更に検討したところ、同氏には、朝鮮医学史に関して多くの論著があることを知り得た。

かくして、『無冤録』及び『無冤録述』検討については、前稿で言及した富士川游氏（1865～1940）『日本医学史』（裳華房、明治 37 年 10 月 23 日刊）等の後を承けた山崎佐、三木栄両氏の諸著作を検討する必要があることがわかった次第である。そこで、本稿では、上記両氏の関連業績等を中心に、一、二言及しておくこととする[3]。

なお、前稿において、『無冤録述』の明治復刻本『変死傷検視必携 無冤録述 完』（奥付に「警察監獄学会蔵書」とある。発行人: 磯村允貞、明治 24〈1891〉年 10 月 23 日刊）の「警察監獄学会」については別途検討の予定としたが、これに関しては、今回、本 HP 別稿「警察監獄学会及び『警察監獄会雑誌』検討一斑―明治警察史の一齣―」[4]とした。

2 山崎佐氏（たすく、1888～1967）関連

---

[1] 山崎佐:〈http://kotobank.jp/word/%E5%B1%B1%E5%B4%8E%E4%BD%90〉

[2] 三木栄〈http://kotobank.jp/word/%E4%B8%89%E6%9C%A8%E6%A0%84〉、〈http://mayanagi.hum.ibaraki.ac.jp/paper04/mikisensei.html〉

[3] 最近の検視問題文献として、武井幸雄（前長野県佐久署長）「独白、警察署長 2 第 7 回 検視」『月刊警察』平成 22 年 10 月号（通巻第 325 号）105~113 頁は、極めて興味深い。

[4] 〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf〉（平成 25 年 3 月 5 日追加）

・『明治前日本医学史』全 5 巻（nacsis webcat に拠る。第 3、5 巻に関係記載）
明治前日本医学史 / 日本学士院編　東京 ： 日本学術振興会, 1955.4-1964.3
5 冊 ；22cm -- 第 1 巻 - 第 5 巻　内容: 第 1 巻:序論 ； 明治前日本解剖学史 ； 明治前本邦疾病史 ； 第 2 巻:日本生理学前史 ； 明治前日本生理学史 ； 日本病理学前史 ； 明治前日本病理学史 ； 第 3 巻:明治前本邦内科史 ； 南蠻医学と南蠻流外科 ； 明治前創傷療治史 附 近代外科の発足史 ； 明治前日本治療学史 ； 第 4 巻:明治前日本産婦人科史 ； 明治前日本眼科史 ； 明治前日本口歯科史 ； 明治前日本耳鼻咽喉科学史 ； 明治前日本外科学史 ； 第 5 巻:明治前日本裁判医学史 ； 本邦（明治前）著名医略伝・本邦（明治前）医事文化年表
　注記: 奥付の編纂者: 日本学士院日本科学史刊行会 ； 発売: 丸善（東京）
　別タイトル: 明治前日本醫學史
・第 3 巻（昭和 31 年 3 月 31 日刊）： 藤井尚久稿「明治前本邦内科史」 ； 故太田正雄稿・藤井尚久校補「南蠻医学と南蠻流外科」 ； 藤井尚久稿「明治前創傷療治史 附 近代外科の発足史」 ； 西川義方稿「明治前日本治療学史」
藤井尚久稿「明治前本邦内科史」⇒『無寃録』57 頁、『無寃録述』57 頁
・第 5 巻（昭和 32 年 1 月 15 日刊）： 山崎佐稿「明治前日本裁判医学史」 ； 藤井尚久稿「本邦（明治前）著名医略伝・本邦（明治前）医事文化年表」⇒
『無寃録』：59、201、204、227 頁、『無寃録述』：97、198、201、209、550 頁、『新註無寃録』：205 頁、『増修無寃録』：206 頁、『増修無寃録諺解』：206 頁、「河合尚久」：209 頁
〔復刻版〕：
〔復刻版追加〕⇒「復刻版の刊行にあたって 緒方富雄［1901～1989］」、総目次（第 1 巻～第 5 巻）、人名索引、物件索引、タイトル　明治前日本医学史　責任表示　日本学士院日本科学史刊行会編　版表示　増訂版　出版地　東京　出版者　日本古医学資料センター　出版年　1978.6.25　形態　5 冊 ；22cm
　注記: 日本学術振興会昭和 30～39 年刊の複製
　注記: 発売:井上書店　入手条件・定価　全 58,000 円
　この他、山崎佐氏について、髙塩博先生より、同氏『法曹瑣談』（文光堂、昭和 12 年 4 月 10 日刊）を御教示いただき、同書中にも、林羅山（1583～1657）の蔵書に『無寃録』の存在することを誌した記載があることを知った（同書「林家の刑書」195～196 頁）。髙塩先生に厚く御礼申し上げるものである。

3 三木栄氏（1903～1992）関連

・朝鮮における『無寃録』については、三木栄氏に多くの論著がある。例えば、夙に、「無寃録に就て（1）」『中外医事新報』第 1152 号（昭和 4 年 10 月 28 刊）499～509 頁、「無寃録に就て（2）」『中外医事新報』第 1153 号（昭和 4 年 11 月 28 日刊）601～607 頁、「無寃録に就て（3）［完］」『中外医事新報』第 1154 号（昭和 4 年 12 月 28 日刊）656～660 頁及び「新註無寃録攷」『中外医事新報』第 1163 号（昭和 5 年 9 月 28 日刊）433～444 頁（上

記『中外医事新報』は、日本医史学会編『日本医史学雑誌（旧称中外医事新報）』（思文閣出版、昭和 5 年③: 昭和 53 年 8 月 30 日刊、昭和 6 年④: 昭和 53 年 9 月 30 日刊）として復刻されている。）がある。
・代表的なものとしては、『補訂 朝鮮医学史及疾病史』（思文閣出版、平成 3 年 6 月 1 日刊）がある。同書 137、138、219、233～236、321、371、401 頁各参照。
三木氏は、同書において、朝鮮における『無寃録』の改修刊行の過程の記述については、李英沢『無寃録の研究』に基づくとされておられる（『補訂 朝鮮医学史及疾病史』234 頁下段）[5]。
・なお、三木栄「日本と朝鮮の裁判医学」江尻進（1908～1996）編『思い出に綴られる山崎 佐の生涯』（江尻進発行、昭和 43 年 2 月 20 日刊）（289～291 頁）は、極めて貴重である。
・三木氏の業績一覧を誌したものとして、下記のものがあるが、同書 10 頁掲載の「東洋の法医学」中の「東洋に於ける法医学書系統表」は、これまた重要である。
三木栄『「朝鮮医学疾病史・人類医学一元論・医倫理考」関連著作目録』
出版地　堺　出版者　三木栄　私家版　出版年　平成 2 年 11 月 25 日刊　形態　　32p ; 21cm
　注記: 背・表紙の書名:医史研究六十余年著作目録　注記　　私家版
　注記: 著者の肖像あり　注記　付（1 枚）　注記　略歴:p1～2

4 李氏朝鮮（1392～1910 年）に於ける『無寃録』の系譜

＊『内閣文庫漢籍目録』185 頁（高橋均先生の御示教に拠る。）
・『新註無寃録』（朝鮮正統 5 年刊本）2 巻　元王与撰　朝鮮崔致雲等注　朝鮮写
＊『宮内庁書陵部漢籍目録』1209 頁（高橋 均先生の御示教に拠る。）
・『増修無寃録』 朝鮮　具宅奎　具允明訂　2 巻［⇒『増修無寃録大全』では?］
・『増修無寃録大全』附 諺解 朝鮮　正祖　命編　（清 嘉慶二版 朝鮮）　3 巻
・『増修無寃録大全』附 諺解 朝鮮　正祖　命編　（清 嘉慶版 朝鮮）　3 巻
・『増修無寃録大全』附 諺解 朝鮮　正祖　命編　（韓 光武写）　1 巻
＊『蓬左文庫漢籍分類目録』51 頁（高橋 均先生の御示教に拠る。）
・『新註無寃録』2 巻　元王与撰　日本江戸中期刊本　翻刊　庚申崔万里跋刊本（日本翻刻本か）
＊三木栄『補訂 朝鮮医学史及疾病史』（思文閣出版、平成 3 年 6 月 1 日刊）233～234 頁
「　李朝に入り明律の採用に伴ない、これを強化するため当時最も卓 / （234 頁）れていた検験書である明版の「無寃録」を供用した。しかしこの書は朝鮮官吏が読修するのに難解の箇所が多く実地に応用し難いので、第四代世宗［1397～1450］は、崔致雲・下孝文・

[5] これは、おそらく同書巻末の「引用文献、主要引用文献」24 頁下段にある李英沢「近世朝鮮の法医学的裁判と無寃録の研究」（ソウル大学校論文集、自然科学第一輯）のことと推測されるが、同書は、ソウル刊本でもあり、詳細不明である。

金滉等に命じて註解及び音註を附せしめた。その廿年戊午（正統三年・一四三八）に撰成り、これを「新註無寃録」と言うた。その後この書は屢々刊行され、律官の必読書として長く英祖時まで広く用いられた。しかして英祖が「続大典」を纂修するに及んで、「新註無寃録」は中国行会の文字や方言が多く難解で、且つ内容も古い時代のものであり不備の点が少なからず存在するゆえ、ここに増補修正を必要とするに至った。かくてその廿年甲子（一七四四）に具宅奎に命じ増刪し改註せしめ、これを「増修無寃録」と名附け、廿四年九月刊行せしめた。しかしてその後正祖時に入り、具允明（宅奎の子）・金就夏（律学教授）等はこれを承けて更に添註増刪し完成せしめたのである。これがすなわち「増修無寃録大全」で、正祖十四年庚戌（一七九〇）にこれを刑曹判書徐有隣に命じ翻諺せしめた。諺解の「増修無寃録諺解」は越えて二年、十六年壬子に刊印されたが、原文だけの「増修無寃録大全」はその後、廿年丙辰に刊行頒布を見た。（この条、李英沢「無寃録の研究」[6]を参照する。）」

5 『無冤録述』の系譜

（1）江戸期刊行木版本

・『無寃録』は、日本に渡来しているが、唐本も朝鮮本（『新註無寃録』）もその可能性あり。同渡来本を基に、日本で和刻されている。識者によれば、『無寃録』は、寛文十（1670）年以前の江戸時代初期から、早くに、我が国で、唐本又は朝鮮本を基に刊行され、宝永期（1704～1710 年）頃まで刊行が続けられたかなり著名な書物であった。また、全文の和訳本（例えば『新註無寃録和解』なる二冊写本は、江戸上期、中期の間になった由）も存在したという[7]。
・これらを経て、元文元（1736）年、泉州の河合甚兵衛尚久が、重要な箇所のみを抜粋して、訓読・翻訳をなし、それが、明和五（1768）年に、『無寃録述』の題名で初めて刊行された。その後、江戸期には、寛政十一（1799）年再版本及び嘉永七（1854）年三版本が刊行されている。

（2）明治期刊行活字本

・『変死傷検視必携 無寃録述 完』（奥付に「警察監獄学会蔵書」とある。発行人：磯村兌貞、明治 24 年 10 月 23 日刊）
同書は、カタカナを平かなになおし、章立てを施すなど、江戸期版本そのものの復刻ではなく、多少編輯されている。なお、矯正図書館本（同図書館ネットでの検出題名：『変死傷

[6] 上記註 4 参照。
[7] 三木栄『補訂 朝鮮医学史及疾病史』（思文閣出版、平成 3 年 6 月 1 日刊）321 頁下段

検死必携　無冤録述』、未見）は、明治 34（1901）年刊（326.7-To-7697）〈http://www.jca-library.jp/〉とのことであるが、山崎佐氏に拠れば、明治 34 年刊本は第六版[8]とのことである。

（3）昭和戦前期刊行活字本

・尾佐竹猛（1880～1946）解題『刑書珍書集（2）近代犯罪科学全集 第 14 篇』（「1、無冤録述」、武侠社、昭和 5（1930）年 8 月 15 日刊）

ただし、同書の翻刻方法、解題につき、前掲山崎佐「検視史資料類纂〔55〕 第 210、検視書及法医学書解題（5）5 変死傷検視必携 無冤録述」（『犯罪学雑誌』第 15 巻第 6 号〈昭和 16 年 11 月刊）100～103 頁の批判参照。

（下記『犯姦集録』、『江戸時代犯罪・刑罰事例集 / 佐久間長敬〔ほか著〕』及び『刑書珍書集 2 近代犯罪資料叢書 6』の三書は、本『刑書珍書集（2） 近代犯罪科学全集 第 14 篇』の復刻本である。）

（4）昭和戦後期刊行活字本

・小寺鉄之助（? ～? ）編著『近世御仕置集成 限定版』（宮崎県史料編纂会、昭和 37（1962）年 12 月 25 日刊）（同書は、宮崎県史料編纂会第三集にして、旧延岡藩駒木根文書を輯録したものであるが、冒頭に『無冤録述』を収め、巻頭に、その「三序跋語」の写真版を掲げている。同書については、今般、高塩博先生の御示教に与った。誌して、深甚の謝意を表するものである。）

・尾佐竹猛『犯姦集録』（史録叢書 3、「1、無冤録述」、三崎書房、昭和 47（1972）年 11 月 10 日刊。巻末に、紀田順一郎（1935～）「解説 検屍、裁判、行刑」あり。）[9]

・原胤昭（1853～1942）・尾佐竹猛（編集）『江戸時代犯罪・刑罰事例集 / 佐久間長敬〔ほか著〕』（柏書房、昭和 57 年 3 月? 日刊）（注記: 上記『近代犯罪科学全集』中の『刑罪珍書集 1』、『同 2』（武侠社、昭和 5 年刊）の改題、合本複製、著者の肖像。佐久間長敬: 1838～1923）〈http://www.arsvi.com/b1900/8203ht.htm〉

---

[8] 山崎佐前掲「検視史資料類纂〔55〕第 210、検視書及法医学書解題（5）5 変死傷検視必携 無冤録述」『犯罪学雑誌』第 15 巻第 6 号（昭和 16 年 11 月刊）101 頁に拠れば、明治 34 年 2 月刊の第六版は、「発行人 東京市四谷区愛住町二番地磯村政富、発行所 警察学会」との由である。本 HP 別稿「警察監獄学会及び『警察監獄会雑誌』検討一斑―明治警察史の一齣―」参照。
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf〉

[9] タイトル 犯姦集録　責任表示　編・解題:尾佐竹猛　出版地　東京　出版者　三崎書房　出版年　1972　形態　515p；20cm　シリーズ名　史録叢書 ；3　内容細目　無冤録述、棠陰比事、江戸にて狐附奉行御捌之伝、犯姦集録、御仕置例類集抄、牢獄秘録　入手条件・定価　1900 円　全国書誌番号　72004489　個人著者標目　尾佐竹, 猛 （1880-1946）

（5）平成期刊行活字本

・尾佐竹猛解題『刑書珍書集 2 近代犯罪資料叢書 6』（写真印刷、原寸収録。大空社、平成 10 年 8 月 26 日刊）

6 『無寃録述』関連現代著作抄

・天野義幸（1923～）『検察庁の証拠品』（高文堂出版社、平成 2 年 3 月 18 日刊）14、15 頁
・川田弥一郎（1948～、名大医卒）『江戸の検屍官 北町奉行所同心北沢彦太郎謎解き控』（祥伝社、平成 9 年 1 月 20 日刊）
〈 http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B7%9D%E7%94%B0%E5%BC%A5%E4%B8%80%E9%83%8E〉
・川田弥一郎（1948～）『江戸の検屍官 闇女』（講談社、平成 12 年 11 月 15 日刊、2,000 円＋税）（平成 22 年 10 月 23 日追加）
・川田弥一郎（1948～）『江戸の検屍官 女地獄』（時代小説文庫、角川春樹事務所、平成 13 年 11 月 18 日刊、667 円＋税）（平成 22 年 10 月 23 日追加）
・氏家幹人（1954～）『大江戸死体考 人斬り浅右衛門の時代』（平凡社新書、平成 11 年 9 月 21 日刊）（「「無寃録述」を見るべし」：29～33 頁）
・和久田正明（1945～）『火の牙 ： 八丁堀つむじ風』（廣済堂出版、廣済堂文庫、特選時代小説、平成 18 年 7 月 1 日刊）（第 2 話 「無寃録述」82～155 頁）

7 HP、漫画、韓国ドラマ等紹介抄

・HP「花のお江戸の若旦那」中「平成 22 年 6 月 4 日 無寃録述」
〈http://ameblo.jp:80/wakadanna2009/entry-10554193612.html〉
・『ビッグコミック』（漫画誌、小学館刊）所載「江戸の検屍官」（平成 22 年 10 月 17 日 庄司末光先生の御示教に拠る。一時休載中なるも平成 22 年 11 月 20 日号より再開、毎月 5、20 日刊。単行本第 1 集 平成 22 年 12 月 25 日発売決定。
〈http://big-3.jp/bigcomic/tameshiyomi/saisin/03/01.html#tameshiyomi〉
平成 22 年 12 月 2 日現在で、現物、ネット両者で確認。上記「6 『無寃録述』関連現代著作抄」参照。）
（「時は江戸、北町奉行所同心の北沢彦太郎。他の同心たちが嫌がる検屍に情熱を傾け、死者たちの無念の声を聞く。江戸川乱歩賞受賞の川田弥一郎（1948～）の原作を、『公家侍秘録』の高瀬理恵、原作／川田弥一郎がコミック化!!」）

・その後、上記『ビッグコミック』既連載のものを収録した『江戸の検屍官』（ビッグコミックス〔スペシャル〕）1（小学館、平成 22 年 12 月 25 日刊）、2（小学館、平成 23 年 8 月 30 日刊）、3（小学館、平成 24 年 8 月 30 日刊）が現在刊行されている。また、『ビッグコミック』にも、断続的に短期集中連載あり（例えば、平成 25 年 2～3 月分にも連載中。）。（平成 25 年 3 月 5 日追加）

〈 http://www.amazon.co.jp/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E3%81%AE%E6%A4%9C%E5%B1%8D%E5%AE%98-1-%E3%83%93%E3%83%83%E3%82%B0-%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%83%E3%82%AF%E3%82%B9%E3%80%94%E3%82%B9%E3%83%9A%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%80%95-%E9%AB%98%E7%80%AC/dp/4091836089〉

〈http://big-3.jp/bigcomic/rensai/edo/index.html〉

・韓国: 『増修無寃録』を題材とした韓国ドラマ『ピョルスンゴム（別巡検）』（2005（平成 17）年制作、DVD BOX 韓国版）がある。

〈http://store.shopping.yahoo.co.jp/scriptv/srt8454.html〉

〈 http://www.yesasia.com/global/%E5%88%A5%E5%B7%A1%E6%A4%9C-mbc%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%9E-%E9%9F%93%E5%9B%BD%E7%89%88/1010005113-0-0-0-ja/info.html〉

・韓国: 『無寃録』（『新註無寃録』か? ）を題材とした韓国ドラマ『大王世宗（テワンセジョン）』（2008（平成 20）年制作、第 75 話。世宗: 1397～1450）がある。

〈http://r35diary.blog4.fc2.com/blog-entry-800.html〉

****

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 8 日追加）

・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm〉

・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄―本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』」検討資料」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf〉

・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf〉

・「大森鍾一『直興遺筐抄』―「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」―」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf〉

・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）―故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰― ―明治警察史の一齣

―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf〉
・「佐和正関係文献抄―明治警察史の一齣―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf〉
・「坂元純凞、國分友諒両氏の墓所について―中原英典氏のお問いかけを追って―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf〉
・「国分友諒顕彰碑について―原田弘先生のお教えに接して―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshohi.pdf〉
・「篠崎五郎関係資料抄―台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人― ―明治警察史の一齣―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf〉
・「後藤松吉郎とは誰ぞ―明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf〉
・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑―明治警察史の一齣―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf〉
・「『無冤録述』検討一斑―江戸期及び明治警察史の一齣―」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf〉
・「続・『無冤録述』の初歩的検討―江戸期及び明治警察史の一齣―」（本稿）
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf〉
・「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf〉
・「高橋雄豺博士著作目録（再訂稿）」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf〉
・「田村豊氏著作目録」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf〉
・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」
〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf〉

****

【関連事項】（令和 4 年 8 月 8 日追加）

・法制史学会: 〈https://www.jalha.org/〉
・国立国会図書館: 〈https://www.ndl.go.jp/〉
・国立国会図書館デジタルコレクション〈https://dl.ndl.go.jp/〉
・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉

・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和 4（2022）年 4 月 1 日追加）
〈https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/〉

・CiNii: 〈https://ci.nii.ac.jp/〉⇒〈https://cir.nii.ac.jp/〉（【［2022］4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、〈https://ci.nii.ac.jp/books/〉

（了）